

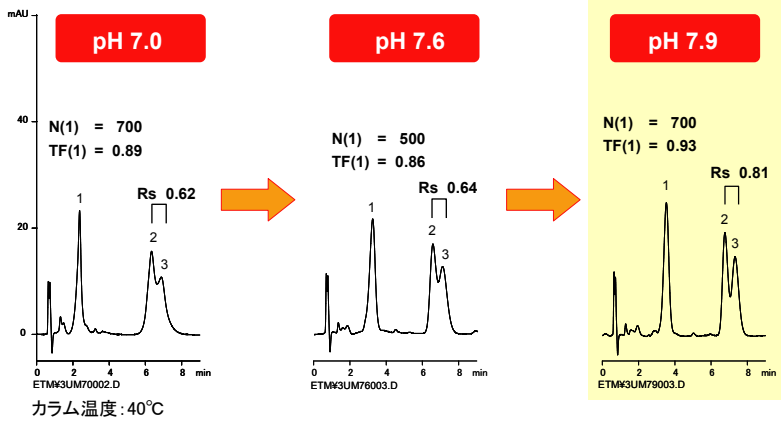
YMC-Triart C18を用いたメソッド最適化例

エリスロマイシンとその誘導体の分離 シリカ系C18では使用困難な条件の適用

S100818A

溶離液pHの分離への影響

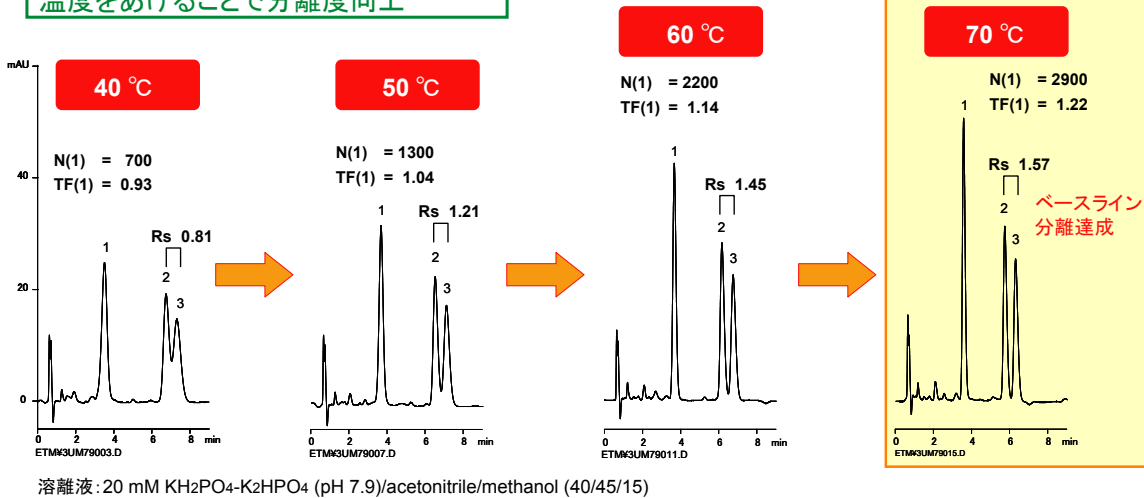
pHをあげることで分離度向上



エリスロマイシンは酸に対して不安定で分解されやすいため、HPLC分析では中性以上のpHの溶離液が用いられます。また、カラム温度についても高温の方がピーク形状が良好で、一般的なシリカ系C18カラムでは使用困難な条件となるため、日本薬局方などではポリマーカラムが採用されています。有機シリカハイブリッド基材のTriart C18は卓越した耐久性を有しているため、このような厳しい条件下でも使用可能です。Triart C18を用いることにより、各種の試料・化合物に応じた最適な分析条件の設定が可能となります。

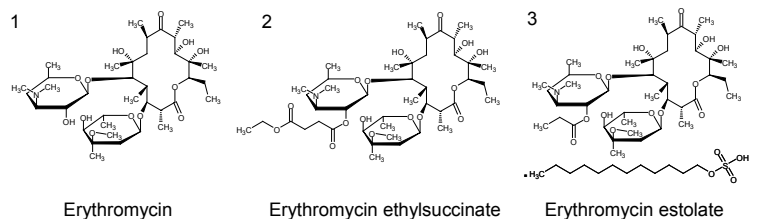
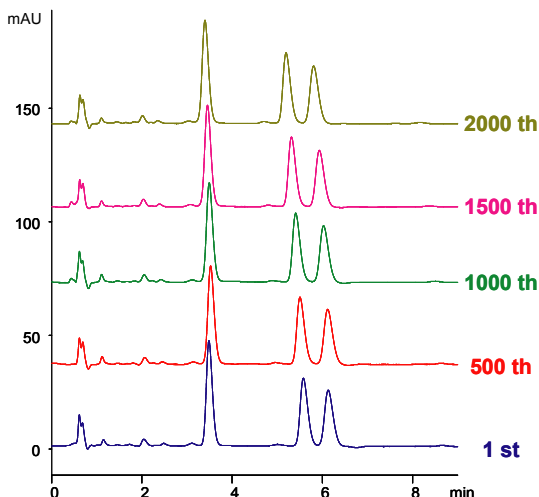
カラム温度の分離への影響

温度をあげることで分離度向上



pH 7.9, 70°Cでの連続分析

過酷な条件でも安定した分析が可能



Column	: YMC-Triart C18 (3 μm, 12 nm)
	: 50 X 2.0mmI.D.
Eluent	: 20 mM KH ₂ PO ₄ -K ₂ HPO ₄ /acetonitrile/methanol (40/45/15)
Flow rate	: 0.2 mL/min
Detection	: UV at 210 nm